

DOKU - GAKU 揭示

もう12月となりました。2005年もあと少しです。

ひとり息子も半ばひとり立ちした専業主婦ともなれば

世間からは暇人の代名詞みたいに思われるのかも。

でもなんだか知らないけど時間が足りない。もっともっと時間が欲しい。

気持ちばかりが急いでゆったり過ごせないことが

時間欲しい病に拍車をかけてしまうのかしら。

何の予定もずっとない生活に慣れてしまう。

会社勤めのみなさんは時間を操る達人のなのかなあ。

うさお

「35号の表紙」：いよいよテーマ（画題）が怪しくなってきた DOKUGAKU の表紙。崩れそうな石碑と言う注文が **Cacco** から来たがうまく表現できなかった。残念！今回の主役は赤十字と赤新月。直ぐ、愛知万博に影響されちゃうところをご愛嬌だね。向日葵の花と得体の知れない中東の女性らしきもの。これだけでは何か物足りないと言うことで、今回は貼り物が付いたよ。キラッと光るところがこれまたご愛嬌だね。

「のほほん万博漫遊記」：「のほほん」と言う言葉の意味をすっかり違うものに変えてしまった **由佳** ちゃんが力^{りき}を入れ、多分燃え尽きちゃったと思われる「愛、地球博」漫遊記。流石に現地人、こまめに全館制覇を企てている。TVで200回以上見に行ったと言う名古屋の女性が取材されていたが、パスポート券で完全に元を取っちゃったね。これだけ頑張った **由佳** ちゃんたちも取材されても良かったのに。きっと、いい絵になったよ！多分、**じんじん** の写真力の技だと思いますが、エジプト館の大きな指輪（かなあ？）が凄い質感が出ていて綺麗です。（あっ、**由佳** ちゃんもです…）

「ご近所トマソン隊かなあ」鉄ちゃん風廃線編：自分で改めて読んでみると、何だか「鉄ちゃん」に傾いている自分を発見します。単に仕事が鉄道関係でそれなりに入ってくる鉄道こぼれ話やおたく話が面白くてのめり込んじゃうのね。後半の赤羽の陸軍兵器補給廠専用線跡地に使われている年代毎の航空写真は、この地域を開発するため会社の仕事で集めたもの。結構、費用が掛かっているものを黙って使っちゃいました。え～、このことは会社には内緒ですよ。

「ご近所トマソン隊かなあ」由佳ちゃんち探訪編：申し訳ありません。すっかり **由佳** ちゃんちをギャグにしてしまいました。泊めて頂いてご馳走にもなったのに、「すっぴんの写真は使わないでっ！」って約束は、鷲（詐欺！）のように薄情にも裏切りました。**うさお** はそんなキャラです。（お弁当も作って貰ったのにですよ！）高浜港は良い町です。大きなスーパーとかは見掛けませんが、情感の溢れる町並みです。もちろん名古屋ですから、「～みや～」言葉なんでしょうけど、「たそがれ清兵衛」のように「～でがんすか…」って会話があるような気がします。

「ビーズな毎日」: **yuko**さんと二人での作品集。今回はビーズの仕事セットのご紹介も。先日、**TICA**さんちに行ったら、システムティックなこのワゴン・セットを見かけました。釣り糸の2号や3号を見ていたら、昔よく行った釣りに行きたくなっちゃいました。十二指腸潰瘍を患ってから、めっきり船に弱くなっちゃってご無沙汰をしています。目を細めて見ていたら、「2号の糸よ！」って突っ込みが。老眼で読めなかったんじゃないかと、思い出に浸っていたんです。判っていますっばあ〜。。

「心理学シリーズ」: 今回は写真が凄いい。そのネーミングがまた凄いい。「静寂」、「誕生」、「清涼」、「炎天」、「爽快」、「苦悶」、「合掌」。また言います。**タツオト**さんの写真は結構好きです。文章中で使われている言葉は、『合理化』、『保障』、『反動形成』、『同一視』、『投影』、『置き換え』、『昇華』・・・この写真と合わせて見ると、何かそれらしきものが見えてくるようで怖い。文字のサブリミナルか？

「十七文字の抒情詩」: え〜また、すいません、宗匠。**うさお**は見たままで感性も入れずにまた詠んでしまいました。**健**ちゃんのほうが**うさお**より恋愛経験が少ないと思っているのですが、どうやら**健**ちゃんのほうがロマンティストのようです。いいんです。**うさお**は。そのうち正岡子規になるんだから・・・。

「好奇心漫遊記」: 今回は推理クイズのようでとっても面白かった。特に **D**さんは倅の本棚の豊臣秀吉（山岡荘八原作、横山光輝漫画）を読んだばかりだったので、直ぐに判りました。（漫画ばかり読んでるんじゃないよ！）天下を取る人は動くときには風の如しなんだなということが良く判りました。このシリーズはもっと続けて欲しいテーマです。**EXCEL**の表にもっとサンプル数を増やして貰い、その最後のセルにそっと自分の系譜を書き足して、誰にも知られないように比較をしてみたいです。

「観V & Cリスト」: **日出彦**さんの好きな仲間由紀恵は沖縄人らしくらぬ濃くない人だ。**うさお**の好きな上原多佳子やHiro（安田大サーカスじゃあないよ）もそうだね。今回は映画が3本で、どうもシネコンで見ているようなので、海老名の街に繰り出しているのだということが判りました。しかし、よく観に行く暇がありますね。**うさお**も通勤途中に多くの映画街やシネコンの在る所を通っているのですが。上野、有楽町、品川プリンス・シネコン、川崎チネ・チッタ、横浜ムービル、みなとみらいシネコンなど。でも、ほとんどビデオ屋でDVDを借り出し、ちょっとDVD-Rにコピーして(良い子の皆さんは真似をしないで下さい)暇のときに観ています。不満は、劇場のスクリーンのように迫力が無いこと・・・。

「執筆者の素顔2」: **Cacco**の素顔・・・う〜ん、**うさお**は**Cacco**の親が過ごした時間よりも多くの時間を一緒にいるけど・・・素顔は分からないなあ。**TomyJr.**さんが気合が入っていたので、その跡を継ぐのにずいぶん心配している様でした。どうするんだ、どう書けばあの様に面白くできるのだと質問されましたが答えられません。いいんじゃないの、自分なりを出せばってことで、野球場まで付き合わされて、写真を撮ってきました。「もう一人の私」のために、**S**君とシンクロするために大井埠頭まで行ってきました。次回の**矢澤洋爾**さんが楽しみです。何を見せていただけるんでしょう。

「私のなつやすみ」: はメンバーの思い掛けない過去が、ジグソーパズルのように示されるので、いつか『執筆者の素顔』も含めて絵が出来上がった時に、ああ、こんな人だったんだあって判るんでしょうね。ジョークに隠された真実を読み取るのも結構面白いですね。**TomyJr.**

さん、矢澤さんの夏休みも知りたかったなあ。

「ミスチルばかぼんど」：国際赤十字館は地味なパビリオンでしたが趣旨は賛同します。メッセージゾーンでは思わず泣いちゃいそうで、男の沽券に係わりそうなので余り長く見ず下を向いていました。（熟年離婚の渡哲也の役どころね！）そんなウルウルしているところを **Cacco** に写真に撮られ「ばかぼんど」に書かれたらと思ったら背筋がぞくっと。

「表紙は語る」：今回は「ばかぼんど」のおまけとしてこじんまりと付いている。向日葵は花が大きい、鑑賞だけの花と考えていたが、西洋人（古いなあ！）は食材として大好きだよね。学名：*Helianthus annuus* 菊科の植物。日本で植物油と言うと菜種と胡麻油が主流だが欧米では向日葵油も人気があるようです。でも、飽和脂肪酸が少なく多価不飽和脂肪酸が多いので、多く口にするとう健康にはあまり良くないみたい。オリーブオイルや、菜種油はまったく逆なので健康食品と言えますが不健康なものほど美味しいんだよね。

TICA

ODGを読み終えたあとくんがひとこと。「由佳ちゃんのおうちって子どもが3人みたい」だって。若いもんね、由佳ちゃん。

由佳ちゃんに逢ったことはないけど、鶴見の本山にじんじんが修行に来た事はちゃんと知ってたよ。もうひとつ縁があるのは由佳ちゃんのお母さんとあたしが同じ名前なんだよね。

よく由佳ちゃんには、「ちかちゃあん、前にも言ったじゃあん」てつつこまれるけど、ちゃんと覚えてることは覚えてるのだよ^_^;

○初めてのフリマ体験。お友達もたくさん来てくれた。お昼前に来てくれた友達がしばらくしてまた顔をだしてくれた。まだいたのって言ったら、あそこにずっといたのよってフリマ会場のはしっこの小高い芝生を指差す。行ってみると、麦酒もおつまみも会場で調達して男女数人がシート広げて宴会してた。フリマの楽しみ方も色々ですなあ。。

タツノオトシゴ

DOKU-GAKU の皆さん、お元気ですか？

タツノオトシゴは相変わらず、のんびりだらりとやってます。

チョッと遅い夏ばてかも？（最近、夏が長すぎだと思いませんか？）

VOL. 35は、大変楽しく見させて、もらっています。特にうさおさんの「ご近所トマソン隊かなあ」は力が入っていますね！

ところで、ちょっと心配事が・・・「執筆者の素顔」を楽しみにしているのですが、由佳さんの順番が廻ってきたら、どんな素顔が見れるか、すご〜く不安です（一一；）

企画の「私のなつやすみ」も中々のものじゃありませんか！

Tomy Jr. さんの読書感想も、面白く読ませていただきました。

うさおさんのリクエストに応え、写真の中に文字を入れてもらいましたが随分と印象が変わるものです。機会があったら、またお願いしま〜す。

いよいよ、6周年記念号！私は忙しくなりそうなので、早めに原稿を送らせてもらいます。

あとはよろしく願いいたしま〜す。

Tomy jr.

「のほほん万博漫遊記」

家族の楽しい雰囲気伝わってきてほのぼのします。

そして、万博会場の空気や温度が体感できるような文章と写真ですね。

来場者目線で捉えた万博の全貌が分かりました。もう自分も行ってきたような気分になりました。

こういうレポートは雑誌やマスコミでは絶対に得られません。同人誌ならではの記事ですね。

近所の知り合いの家族から直接聞いたナマ情報って感じです。写真の目線がいいし、綺麗です。

由佳さんの美人レポーターぶりもさることながら、回を追って由佳さんの策略にはまっていくじんじんさんの様子も伺えてレポートに厚みを添えていますね。本当にうらやましい家族愛がそこにありました。このレポートの真のテーマは家族愛かも知れませんね。

国際赤十字館の内容が気になりますな。そんなに素晴らしいならTVでも放送して欲しいし、DVDにもして欲しいな。

「ご近所トマソン隊かなあ」2編

鉄ちゃんの廃線紀行はいつもながら、単なるオタク趣味にとどまらず、時代考証や現場主義に裏打ちされたアカデミックな考察に感心させられます。そして、毎回、写真が美しい！ライ隊員の出し方も絶妙です。ツボを心得ている気がします。やはり本文にも書かれています。史跡を示すには美しいオブジェよりも昔実際に使っていた道具などをあしらうべきでしょうねえ。鉄輪を模すくらいだったら実際に使っていた鉄輪を使うべきですよ。由佳ちゃんち探訪編もとっても興味深いですね。知り合いのお宅に泊めていただくって楽しいですね。しかし大きなお家だと思ったらご住職のお宅だったのです。凄い。そして、瓦の写真が素晴らしい。あんなにズームしてもぶれないとは神業写真です。ただの瓦もよく注目するとこんなに楽しいのか、と改めて思います。

「ビーズな毎日」

ちかびいずも yuko びいずもとても美しいし、可愛い。色合いが素敵です。指輪だけで考えているのではなく、ちゃんと着る服とか付けるシーンをイメージして考えられているのがよく分かります。さすが女の子ですね。私みたいなおじさんが作ったら職人になって、その指輪単独で完結してしまうような「作品」を作ろうとしてしまいます。でも指輪はまず指にはめるし、その指は肌色だし、爪にはマニキュアの色があるわけで、その手は袖から出ていて、袖の先には衣服があって・・・結局、ファッション全体がイメージできておしゃれの一環としてのアクセサリでなければいけないわけですよ。よくみているとその辺が少し見えてきます。それらを考えて見ていると奥が深い世界なのです。そして自分で作れるという点が宝石などと違う楽しさなんですよ。

「心理学シリーズ S.フロイト編 <その3>」

いつもながら、心理学用語を分かり易く解説されており、身近な気がして読んでいてもよく分かるし興味が沸いてきますね。私も思いっきり早生まれなのですが(3月)、我が家は家内も長男も次男も全員早生まれ。確かに絵画や音楽など芸術にはみんな興味がある方なのでビックリ。あと、何気なく挿入されている写真がみな素晴らしく、「清涼」などと添えられている一言も奥深い味わいがあります。たぶん、この写真だけを並べても十分に素敵な作品になると思います。

「十七字の抒情詩」

これも毎度毎度、読めば読むほど味わい深くて面白い。添削は本当に見違えるように俳句らしくなるのでビックリです。

うさおさんの投句もみな素晴らしい。わたしはどうしても俳句とか短歌とか詩とか、そういった方面の才能がないのか、なかなか浮かびません。無理くり作ってもやたらと理屈っぽいものになって全然良くないのです。でも、毎回、一句ずつでも投句していけばいつかはスラスラ作れるようになるかもしれないと考えて、投句しようと思いました。

「好奇心漫遊記」

この人の視点、ものの考え方にはいつも驚かされ、感服させられます。なんとも新鮮なものの捉え方をするんですね。歴史上の人物をこのような形で匿名にして略歴だけ並べると、全く異なった歴史観が生まれそうです。というよりも、こういうことこそ歴史教育の本質に近いのではないかとすら思えてくるから不思議です。う～む、矢澤、恐るべし！

「観V&Cリスト」

私はあまり映画をみないので、このコラムは逆にいつも参考になります。

「宇宙戦争」！この映画ほど前評判高く公開後に一切話題にならなかったという落差の激しい映画は最近無かったですよね。C a c c oさんも「見たい、観る！」と言っていたけど「観たよ」という話すらしないもん。きっと、この映画を観る前はみんな映画館でワイワイ、ガヤガヤしていて、映画が終わって出てきた時はシーンとして家に帰るまで一切映画の話題にならないという感じだったんだろうなあ・・・。

「エピソードⅢ」！これはさすがに私も観ました。第一作「エピソードⅣ」の公開が確か就職したばかりの頃だったから、ああ、もうそんなに時間が経ったんだなあ、と思います。日出彦さんはアナキンに同情したんですね。この辺りは私とC a c c oさんでも随分と激論を交わしましたが観る人によって違うでしょうねえ。

「執筆者の素顔（C a c c oの巻）」

私がトップバッターを努めさせて戴いたこの新コラム、第2回目は私の指名でC a c c oさんですが・・・思っきりトラ一色できましたね。くっそーなになに？「この先20年くらい阪神は優勝しませんからね、許してください」だあ？

よおし、言うたな！ほんまやな、絶対やな、この言葉、忘れんぞ、覚えときや！

まあ、しかし、似ている人が「桃井かおり」に「酒井和歌子」か・・・いいな、美人は。

「世界の妹」とはなかなかのキャッチフレーズだけど、大きく出たねえ。

「妹」キャラとしては、昔、「内藤洋子」っていましたよね、加山雄三の妹役で。

C a c c oさんが私に課した新コラムでしたが、私が好き勝手に作ったフレームを上手に駆使して縦横無尽にご自分のキャラクターやご鼻肩チームやタレントをしっかりとフォローし、充実の方向付けをしてくれました。感謝！次回の矢澤氏の巻も楽しみです。

「私のなつやすみ」

いい企画でしたね。この企画があるの、忘れて投稿しそびれてしまった。

それぞれの充実した時のかたまりを賞味しました。ご馳走様でした。

特にT I C Aさんの「北海道楽紀行」はみんな美味しそうで、よだれモノ。

クジラのユッケ、う～ん、食べてみたい。ほうほう、ススキノのラーメン横丁は不味いのですね、ふんふん。お嬢さんが美味しそうに食べているのは写真で見ているもとても幸せになりますね。

「ミスチルばがぼんど」

ダメだあ～、これはどうしても入っていけない。やはり「その道」の人でないと・・・。

「表紙は語る」

今回の表紙、金色のシールが画期的ですよね。こないだ死んだニュージーランドの画家、フンデルトワッサーを思わせる作品でしたね。

「読書リスト」

今回、まじまじ読みましたが、私以外、みな小説ですね。私は文学よりもノンフィクションとかドキュメンタリー、エッセーとか論説なんですよ。ちょっと自分が浮いているって感じがよく分かりました。

次回企画お知らせです。

今回は新年第一弾ということで、**2006年の大予想** をしてください。

政治や社会の変化や流行りそうなもの、新しい年にむけての抱負でもいいです。来年の暮れに答えあわせしたいのでなるべく沢山の方の参加をお待ちしています。

では今年も企画提出お世話様でした。新しい年が皆様にとって今年以上の佳い年になりますようにお祈りしています。あーめん。

いよいよ7年目に突入するDG。

2006年もみなさんにとってDGにとって良き年となりますように。

次号2006年第一弾DGをお楽しみに。

2005年12月1日発行

発行人 読書を楽しむ会

印刷・製本

c's工房 &

M's